

令和3年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（中部地区） 議事要旨

日 時：令和3年11月16日（火）午前10時～11時30分

場 所：中部総合事務所 1号館 B棟 2階 202会議室

（1）サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

- 天神川左岸地区の浜幅について、令和元年に対して令和2～3年の浜幅が大きくなっている。これは天神川の河口砂州約1万m³を左岸側に養浜したことによる効果と思われる。
- 天神川右岸側は深浅測量が実施されていない箇所である。今後、関係機関で調整の上、深浅測量データの取得・蓄積の検討をお願いしたい。
- 汀線が安定していると説明があったが、現場の認識としては決して安定しているという感覚ではない。直近10年や15年の汀線変化を見れば安定しているように見えるが、もう少し長いスパンで見ると天神川左岸側の汀線というのは後退している。資料が現状から少し乖離してしまっているため、事務局で表現を検討してほしい。
- 将来にわたって、深浅測量が有効活用されるよう各海岸管理者が測量時期を合わせるなど、この調整会議を活用し、更に連携を図っていきたい。

（2）各管理者の土砂管理への取組

■令和3年7月7日出水以降の河口砂州の変遷

- 7月の出水で、どの程度海岸へ土砂流出があったかが分かれば教えてほしい。
- 非常に有効なデータと思われるため引き続き観測をお願いしたい。

■海岸侵食対策実績

- 海岸の維持管理や危険箇所の把握には定期的な状況把握が大切であり、可能であれば定期的に撮影頂きたい。
- 台風の影響などで浜崖が発生し、地元も心配している箇所もある。引き続き必要なサンドリサイクルの実施をお願いしたい。

■北条川放水路における河口閉塞対策検討状況

- 灌漑期であれば砂州のフラッシュに必要な流量が確保できない性能もあるが、非灌漑期であれば耕作者等との調整により水を回してもらうなどの調整が可能だと思われる。